

国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
文章や資料などについて理解し、適切に整理する技能を身に付ける。	読み取ったことを基に、要約したり自分の考えをまとめたりする力を養う。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア・平仮名や片仮名の表記は習得しているが、単語や言葉のまとまりとして読む力に課題がある。</p> <p>イ・課題をしっかりと把握し、自分の考えを話したり、読み手に伝わるように書いて表したりすることはまだ難しい。</p>	<p>ア・物語文や説明文では、音読活動を十分に取り入れ、語彙を増やし、言葉のまとまりを意識して読むよう指導する。</p> <p>・問いの文や答えの文など、文章構成にも着目させ、文章を理解する手掛かりとしたり、自分で書く時にも学んだことを活用して書いたりする。</p> <p>イ・小グループで意見交流し、友達の考えを取り入れるなど、多様な考え方を知る機会を設定する。</p> <p>・話型や、書くときの型を示す。</p> <p>・自分なりの考えをまとめて書いている児童の文を全体で共有し、友達の考えのよさや、読み手に伝わりやすい書き方のポイントを捉える手だてとする。</p>	9月～2月	<p>ア・授業だけでなく家庭学習でも音読活動を継続したことで、言葉のまとまりを意識して読む力が付いた。</p> <p>・本文中の重要語句を囲ませたり、サイドラインを引かせたりしたことで視覚的に理解させることができ、自分で答えを探したり、文型を文章に活用したりするようになってきた。</p> <p>イ・発表や意見交流の機会を通して、友達の考えに触れ、自分の考え方と比較したり、感想を伝えたりできるようになった。</p> <p>・話型や書くときの型を示すことで、相手に伝わる表現ができるようになった。</p> <p>・意図的に児童の文章を全体に共有することで、書き方のヒントを得て思考を深めることができるようになった。</p>
第2学年	<p>ア・説明的文章等において、時間の順序を捉えたり、文章と写真を対応させたりするなど、情報と情報の関係についての理解は十分ではない。</p> <p>イ・感想を交流する活動は多く体験しているが、読み取ったことについて根拠を叙述から示して自身の考えをまとめることは難</p>	<p>ア・文章と写真を線で結んだり、バラバラになった文章を並び替えたりするなどの活動を取り入れ、文章の中から情報を選び出し考えるような必然性のある場面を授業の中に取り入れる。</p> <p>イ・どの叙述から考えたのかを根拠とともにまとめられるように、まとめ方の例を示す。</p>	9月～2月	<p>ア・順序や時を表す言葉を認識することができるようになった。</p> <p>イ・文章の中から、根拠を見付けることが少しずつできるようになってきた。</p>

	しい。			
第3学年	<p>ア・文章を読んだり、書いたりすることに時間がかかる。語彙を増やすことで、文章全体の大まかな内容を捉えられるようになることが課題である。</p> <p>・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することに課題がある。</p> <p>イ・主語と述語の理解や、問われていることを読み取り理解することが難しい。また、読み飛ばしをする傾向が見られる。</p>	<p>ア・図書の時間など、日常的に活字の本を読む機会をつくる。</p> <p>授業では、音読や辞書を活用する場面を設定する。</p> <p>・接続語、段落に書かれている内容、段落のもつ役割や性質も踏まえ、段落相互の関係を考えられるようにする。</p> <p>イ・主語、述語の関係を話し言葉でも書き言葉でもはっきりさせるようにする。</p> <p>・自分の考えをはっきりさせたうえで、5W1Hを基本として、文章をまとめる練習をしていく。</p>	9月～2月	<p>ア・日常的に辞書を活用したり、図書の時間に活字の本を読んだりする機会を継続的に作ったことで、物語文などの大まかな内容を捉えられる児童が増えた。</p> <p>・接続語や段落の役割、段落相互の関係を考えられるようになってきている。しかし、その内容の要点を押さえて完結にまとめることに課題がある。</p> <p>イ・主語、述語の関係や5W1Hを理解して文章を書けるようになった児童が増えたが、日常的に文章を書く機会をさらに設けるなどの工夫をして、さらに定着させていく必要がある。</p>
第4学年	<p>ア・場面の移り変わりや登場人物の様子などおおまかなことは読み取ることができる。文章の細かい点を読み取ったり、根拠となる叙述と自分の考えを整理したりすることには課題がある。</p> <p>イ・重要な語に注目しながら、自分の考えが伝わるように文章をまとめることに課題がある。</p>	<p>ア・友達と考えを共有する場面を設定し、互いが文章の中の叙述のどの部分に注目して考えたのか根拠を示しながら交流する。</p> <p>・読書する時間を設け、その内容や感想を伝え合う活動を設定する。</p> <p>イ・どの叙述を基に考えたのか理由をはっきりさせるようにする。</p> <p>・例文を示すことで、適切な文章量で書けるようにする。自分の考えとそれを支える理由や事実との関係を明確にして書くように指導する。</p>	9月～2月	<p>ア・自分の考えの理由を、叙述をもとに説明しようとする姿が見られるようになった。</p> <p>イ・重要な語を見つける力が身に付いてきたため、自分の考えが伝わるように文章を書けるようになってきた。</p>
第5学年	<p>ア・思考ツール等を活用し、文章全体の構成や内容理解ができるようになってきたが、場面ごとに要点をまとめ、整理する力が課題である。</p> <p>イ・要約する力は少しずつ付いてきているが、筆者の考えに対して自分の考えをまとめる力には課題がある。</p>	<p>ア・要点をまとめるために、筆者の主張や考えを捉え、それと関わる言葉や文を見付けるように指導する。</p> <p>・文章を整理する際に、重なりがないか、大事な文や言葉が入っているか、見直すよう指導する。</p> <p>イ・主語と述語のつながりが成立しているかを見直す。</p> <p>・自分の考えをまとめる時には、筆者の考えや事例と自分の経験や体験等を結び付け</p>	9月～2月	<p>ア・物語文では、場面ごとに重要な語句や文章を抜き取り、まとめることができるようになってきた。説明文では、筆者の考えや内容の中で最も大事な部分に着目し、整理することに課題がある。</p> <p>イ・筆者の考えに対して自分の考えをもつことができる児童が増えてきたが、自分の考えを整理し表現することに課題が</p>

		て書くようにする。		ある。
第6学年	<p>ア・主張と事例の関係に着目して文章全体の構成を捉えることに課題がある。</p> <p>イ・読み取ったことを条件を満たして自分の考えとしてまとめることに課題がある。</p>	<p>ア・線を引いたり表にまとめたりするなどして、事実と感想、意見などの関係を捉えられるようにする。</p> <p>イ・目的や意図に応じて既習事項や経験とつなげて考え、筆者の主張に対する自分の立場を明確にして考え、表現を工夫してまとめるようにする。</p>	9月～2月	<p>ア・線を引く、表にまとめるなどしたことで、全体像を考えながら関係を捉えることができるようになった。</p> <p>イ・説明文では、筆者の主張を捉えたうえで、自分の立場を明確にし考えを表現できるようになってきた。</p>

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>1・2年</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末のロイロノートや、写真や動画機能を用いて発表、意見交換する。【重点：個別・協働】 <p>3・4年</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末のインターネットを活用して写真や文章など必要な情報を収集する。【重点：個別】 タブレット端末を使って各自のまとめを共有し、交流する。グループで調べたりまとめたりする際にタブレット端末を活用して、共有しやすくする。【重点：協働】 <p>5・6年</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末のインターネットを活用して写真や文章など必要な情報を収集し、調べたことを思考ツールを用いて整理し、まとめる。【重点：個別】 思考ツールを共有し比較して考えることで、多様な考えに触れられるようにする。【重点：個別】 調べたことを基に、タブレット端末を活用して、プレゼンテーションや説明を行う。【重点：個別・協働】 	<p>全学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した内容を振り返ったり、これから学習する内容の理解につながるような提示をしたりして、本時における課題を明確にする。 一時間一時間の課題について、自分の考えをまとめ、次の課題につながるようにしていく。 適切な語句を用いて、分かりやすい文や文章にする学習を継続して行うことで、言葉がもつよさに気付けるようにする。